

## ～低炭素杯表彰式～



午前中に非公開で行われた「審査委員会」において、今年の受賞者を決定しました。表彰式では、環境大臣賞グランプリ（1団体）、金賞（各部門から1団体、計4団体）、の受賞者が発表され、平口洋環境副大臣より各団体の代表の方々に賞状とトロフィー等が授与されました。

また、今年から新設された文部科学大臣賞（社会活動分野・学生活動分野）では、堂故茂文部科学大臣政務官より各団体の代表の方々に賞状とトロフィー等が授与されました。

企業・団体賞については、各賞提供のプレゼンターから受賞者（10団体）へ、オーディエンス賞は小宮山宏実行委員長から受賞者（2団体）へ授与されました。さらに当日、規定枠外として審査委員特別賞が発表され、金谷年展審査委員長から受賞者（1団体）へ後日、表彰状が贈られました。

### 環境大臣賞トロフィー

第一回低炭素杯から風倒木や朽木を利用した環境大臣賞トロフィーを制作いただいているのは、群馬県在住の木工造形家齊藤公太郎さんです。

今年は、齊藤さん在住の群馬県の樺の倒木と杉の間伐材が素材として用いられ、例年に増して个性的かつ芸術性の高い作品に仕上げてくださいました。

今回のトロフィーも、温暖化に向き合い、環境問題に取り組む皆さんを応援する、「杯（はい）」であり受賞した皆さんが手にとった時、手助けとなる説得力を持った「トロフィー」として、齊藤さんの想いが込められた作品です。



### 文部科学大臣賞トロフィー

文部科学大臣賞トロフィーの制作を手掛けてくださったのは、青森県五所川原市の里山に津軽金山焼の窯を開いた松宮亮二さんです。須恵器の強い影響を受けた津軽金山焼は、釉薬を一切使わずに、1350度の高温でじっくりと焼きあげて固める「焼き締め」の手法で、土本来の深みのある独特の風合いが特徴です。自然界の土だけをこね成形し、バイオマスエネルギー源である灌木材を焼き、土の釜で幾夜もかけてじっくり焼く金山焼陶器。夜通し薪をくべ、巨大な登り窯で焼きあげた土のトロフィーです。

